実力向上講座（硬筆）

【第十六回】「硬筆書写の基礎・基本とその応用」

―漢字楷書の許容される書き方―

文教大学文学部講師
本誌編集委員
米本　美雪

◇はじめに

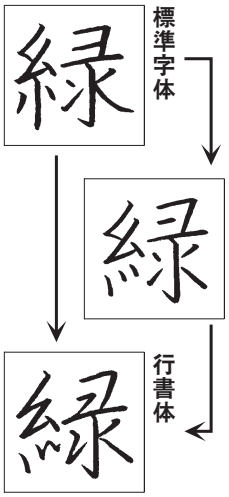
今回は、漢字楷書の許容される書き方（以下、許容字体とする）について解説します。許容字体は、前月号まで解説した楷書の字形とは異なり、速く書くことができ、行書の学習に移行できる楷書の書き方です。これを修得することは、書写・書道を学ぶうえで必要不可欠のことと言えます。

■許容字体を学習する必要性

小学書写では、平成二十九年告示の小学校学習指導要領の学年別漢字配当表の教科書体に基づき、標準的な楷書（以下、標準字体とする）を学習します。中学書写では、学習活動や社会生活における言語活動に対応するため、楷書より速く書くことのできる行書の学習が行われます。この行書学習時に関連して指導される楷書の字形が、許容字体です。

図1に「緑」の標準字体と許容字体および行書体をそれぞれ示します。標準字体から行書体への移行は難解ですが、許容字体から行書体への移行は容易になります。このことから、許容字体の修得が必要となります。

図1



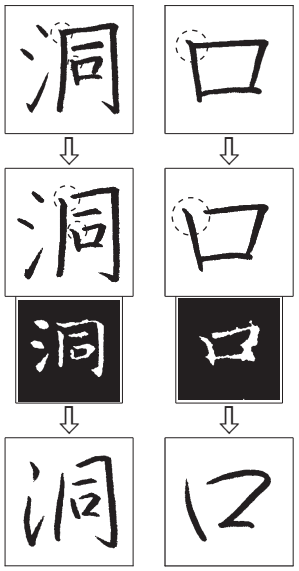
■標準字体と許容字体の違いについて

平成二十二年十一月三十日に内閣告示第二号として告示された常用漢字表「（付）字体についての解説」において、「筆写の楷書では、いろいろな書き方があるもの」として、許容字体の字例が示されていますが、すべての常用漢字について示されているわけではありません。本稿で、詳しく解説します。

■古典に由来する許容字体

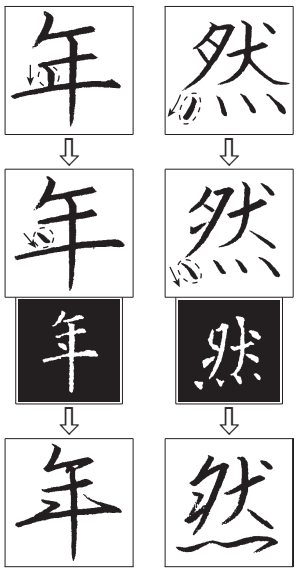
許容字体は、古典の楷書の字形に由来していることから、標準字体と許容字体の違いを、次頁①から④に古典例を交えて示します。あわせて行書体も付記します。

①点画の付け離し



②点画の変化

③点画の方向



④点画の長さ

次に、①から④の項目ごとに文字例を挙げ、許容字体を学習する際、特に留意する箇所を朱で示します。あわせて古典例も付記しますので、参照してください。

■許容字体学習時の留意点

①点画の付け離し

などの部首（もん・もんがまえ）

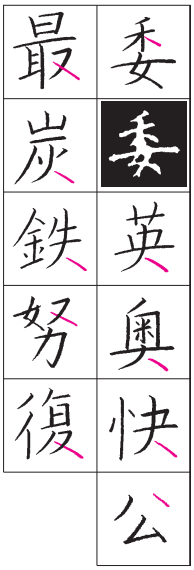
その他

②点画の変化

（イ）右払いが点になる文字例

などの部首（あくび）

その他

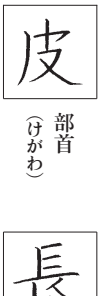


※標準字体の右払いで書く文字例

などの部首 攵（のぶん・ぼくづくり）

例外

（短い右払いは点になる場合が多い）



部首（けがわ）

部首（ながい）

その他

（ロ）左払いが点になる文字例

少 少 劣 小

などの部首（しょう）

禁 票 票 示

などの部首（しめす）

紙 素 素

線 糸※

などの部首（いと・いとへん）

※十六頁図2⑸参照

その他

兆 飛 飛

（ハ）右上払いが点になる文字例

翁 翁 羽

などの部首（はね）

その他

均 均 弱

（ニ）点が右上払いになる文字例

雲 雲 電 雨※

などの部首（あめ・あめかんむり）

※十六頁図3㋑参照

その他

然

（ホ）曲がりが点になる文字例

空 窓 窓

などの部首（あなかんむり）

その他（※）

商 陸

※これらは「曲がり」の字例もあります。

（ヘ）「木」が「ホ」になる文字例

案 案 栄 果 果 架 架 新 新 雑 条 薬

※これらは少数ですが、木の古典例もあります。また、採 菜 などを構成に含む文字は、木 采 の古典例が多く見られます。

古典例

采 采 菜 菜 採

（ト）横画が斜め点になる文字例

所 戻 戻 戸

などの部首（と・とだれ）

その他

雇 今 龍 龍

（チ）斜め点が横画になる文字例

永

※十六頁図3㋺参照

（リ）左払いが横画になる文字例

風

部首（かぜ）

その他

印 印 穏 系 浮 浮

（ヌ）右上払いが横画になる文字例

武 武 封 理※

※十六頁図3㈩参照

（ル）縦画が左払いになる文字例

静 青

などの部首（あお・あおへん）

その他

肯 肯 真 真 直

（ヲ）左払いが縦画（止め）になる文字例

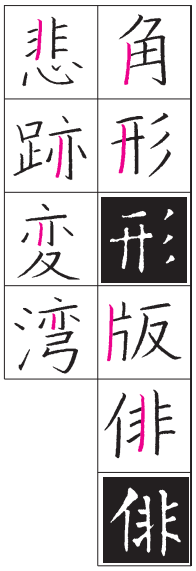
非

部首（あらず）

赦 赤

などの部首（あか・あかへん）

その他



（ワ）折れの終筆（はね）が払いになる文字例

（カ）曲がりの終筆（はね）が止めになる文字例

部首（ならびひ）

部首（るまた・ほこづくり）

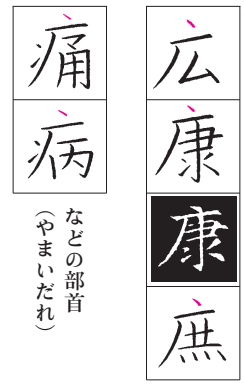
その他

③点画の方向

（イ）立ち点が斜め点になる文字例

などの部首（うかんむり）

などの部首（なべぶた・けいさんかんむり）



などの部首（まだれ）

などの部首（やまいだれ）

などの部首（ほう・ほうへん）

などの部首（たつ・たつへん）

などの部首（ころも）

※十六頁図2(4)参照

などの部首（からい）

などの部首（しょく・しょくへん）

などの部首（げん）

などの部首（しん）

※十六頁図2(10)参照

部首（ぶん）

部首（おん）

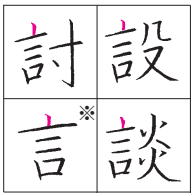
部首（たかい）

部首（いろ）

その他

など

（ロ）斜め点が立ち点になる文字例



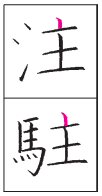
などの部首（いう・ごんべん）

※十六頁図3(ニ)参照

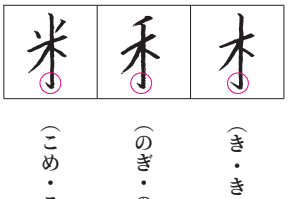
その他

を構成に含む文字

※十六頁図3(ホ)参照



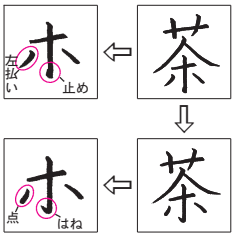
（ハ）縦画の終筆（止め）がはねになる文字例



（き・きへん）　（のぎ・のぎへん）　（こめ・こめへん）

（うしへん）　（すきへん）

※「茶」の「ホ」部分の縦画の変化について



※「糸」の「小」部分同様、特に留意してください。

④点画の長さ

以上、古典に多く見られる字例を基に解説しましたが、全常用漢字についての解説は紙幅に限りがありますので、補足すべき許容体について図2に示します。許容字体にはさまざまな書き方がありますので、参照してください。

その他、速く書くことができ、行書体へ移行しやすい許容字体について図3に示しますので、参照してください。

図2

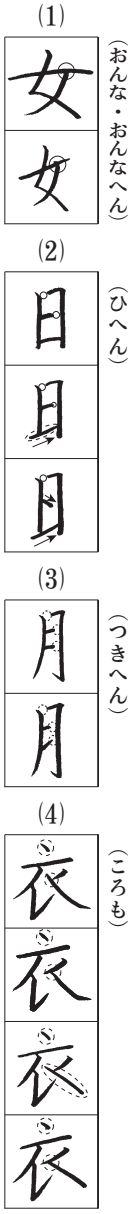
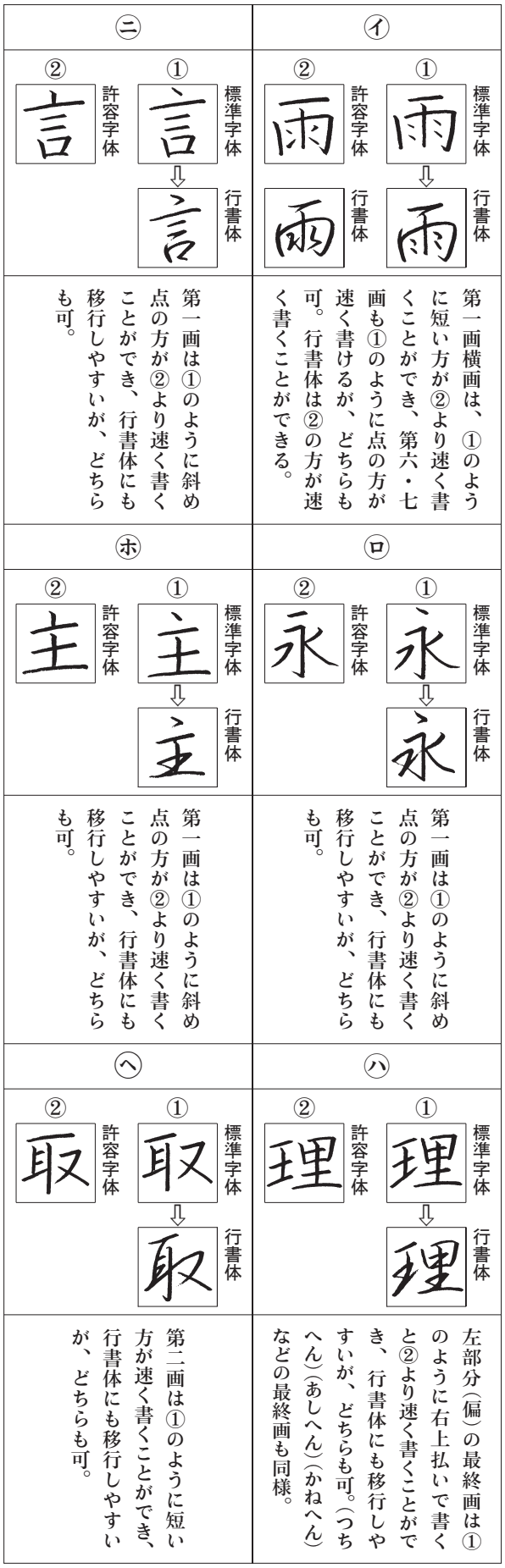


図3



これまでの許容字体の学習を踏まえ、朱の部分に特に留意し、下段の「書いてみよう」を行ってください。

許容字体は、解説したとおり、行書を学ぶうえで必要不可欠な字形です。また、古典楷書の臨書学習においても有用となりますので、理解を深め修得するように心がけてください。

次回は、漢字楷書の基本点画で構成される片仮名について解説します。

※お詫びと訂正

六月号十五頁の「図13」の「ほうへん・かれへん」の名称を「ほうへん・かたへん」に訂正いたします。

※書いてみよう「門」「努」「飛」「羽」「然」「案」「印」「俳」「報」「役」「皆」「無」

—まとめ問題にチャレンジ—

次の平仮名を漢字に直し、Aに標準字体を、Bに許容字体をそれぞれ書いてみましょう。

(1) きざし　B　A

(2) おんがく　B　A

(3) しんぼく　B　A

(4) かいそう（改装）　B　A

(5) のうぶ　B　A

(6) けんえき（検疫）　B　A

解答

(1) B 兆　A 兆

(2) B 音楽　A 音楽

(3) B 親睦　A 親睦

(4) B 改装　A 改装

(5) B 能舞　A 能舞

(6) B 検疫　A 検疫